

3435 霧走る湖水：状況と心模様①

十月末、アメリカ・ニューイングランドは、結構冷え込む。ボストンでの個展後の事である。

大学副学長のロバートご夫妻宅に、長期滞在させていただいた。

ボストン郊外のペンブルークにお宅がある。

個展でのレセプションや私の役割も大成功で終了。

頑張ったご褒美に、いつも自由時間をいただくことにしている。

カナダ国境を目指し北上する計画をしていた。

いつものように急ぐ旅ではない。漠然と目的地はあるが、いつ、変更するかわからない旅。

道草や横道にそれる。期限まで、そんな旅のスタイル。

最高の瞬間は、求めずとも、自然が私を誘ってくれる。

だから私は心のおもむくままに歩き、最高のレンズである眼を使って、ひたすら見る。

出会う情景は一期一会だが、「夢の時間」は心の奥深い所にいつまでも残る。

「遊を楽しむ」は、何とも面白くミステリーのある旅である。

どれだけ北上したかは、定かでない。二日目の朝だった。人里離れた山道にさしかかった。

何となく直感が働き、そして脇道へ。鬱蒼とした森である。

道がまわりくねり、迷い込んだような状況、もちろん、地道である。

車の車種も、この時は普通車。いささか道幅が狭く、Uターンは可能だろうか心配。

というのも、別荘でもあるのだろうかと思っていたが、見あたらない。

大変なところに来てしまったのかもしれない。

北米は広大。わだちの中をしばらく走らせると、ようやく行き止まりになった。

車を駐車できるスペースもあり、Uターンも可能、ホッとした。車外に出て大きく深呼吸。

かなり、肌寒く感じる。さてどうしたものかと、周りを見渡した。

熊が出没する場所ではないだろう。もしいたとしても、今は冬眠中だろうと…
どうも、過去の記憶がトラウマになって脳裏をかすめる。
すこし心配しすぎである。大胆な行動をするくせに、どうも、話に矛盾があるようだ。

1年前だった。熊との遭遇体験があり、よほど気になるようだ。
熊が出そうな雰囲気、似ていたので思ったのかもしれない。そうであるなら
やめれば良いのと思う。しかし、好奇心が勝った。

写真の一脚を、杖代わりというか、また、防御のための武器に。足元も確認しながら前進。
ミステリー冒険をしているわりに、臆病である。肌寒さは、ガードすればいい。
今回も、山に分け入ることもあるだろうと装備は準備している。

そして、冒険の旅が始まった。ハイキングコースであれば案内板があるのが通常。
雰囲気を直感で判断し、行動するのが久楽のスタイル。
決断すると一直線。先入観を持たないから、面白い一期一会の出会いが楽しい。

またまた、話が脱線するが、「未知」というキーワード。
行き先のわからない、二泊三日のミステリーバス旅行が、今、人気になっているそうだ。
格安ということもあるのだろうが、どこに行くのだろうという面白さ。
旅立ち前に、想像や思いめぐらすのは楽しい事。

ハプニングはあるだろうが、安全というキーワードは不可欠。
商売とはいえ、実に上手いネーミングと企画である。
グループ旅行と一人旅、日本国内と海外では違うが、この先に何があるのだろう。
わからないミステリーは面白い。ということは、久楽の旅は、
面白いということかも。

好奇心が勝り、前進することにした。道に迷わないように、帰りの目印も久楽流に残す。
そんなに深く入らなかったが、180度、光景が変わり、
突然、眼前が開けた。それは、まるで舞台の幕が開いたような感覚だった。